

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳・奉仕・思いやりの心を大切にして、日常生活に安心・満足が得られるように、一人ひとりが地域に暮らす者としての自分の役割を持ち生活が充実することを目標としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向け、職員とともにホームをつくる姿勢を示し、やる気と働きがいのある職場づくりに努めている。 日々意識が持てるように理念は玄関及び事務室に掲示している	○ 一人ひとりが可能な限り心身の機能を維持し、より主体的な生活ができるようにしたい。 日々実践に向けた活動ができるように理念はホールにも掲示し入居者様の目にも触れやすいようにしたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	機会あるごとに、家族や地域の人々に社是、理念を伝え理解してもらえるようにしている。 世代間交流なども機会を設け、地域の方々や出会う人々とのコミュニケーションを大切にしている。	○ より理解してもらえるように関わるすべての人達に社是や理念を伝えられるように今後も努めたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の自治会の一員となり地域活動にも参加しており、入居者様も地域に温かく迎えられるように努めている。 地域に暮らす者として、幼稚園児や高校生の実習なども受け入れており、幅広く交流機会が持てるようにしている。 地域行事へは積極的に参加しており、夏祭りも主催している。 近隣の方々がりんごなどの収穫物を差し入れてくれたりしている。	○ 積極的な啓発活動を行い地域の幅広い人達との交流が持てるように、介護予防教室の開催、介護相談、また認知症に係る最新の情報を発信していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員や家族に伝えている。また全職員と評価結果の改善すべき点において対策を話し合っている。 外部の意見を反映させ、より良い環境作りに取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しサービスの実際、報告、評価結果をもとに、関係各位との意見交換を行っており、サービスの向上に努めている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難ケースの相談や報告をするなど、市町村担当者と直接意見交換する機会を持っている。 生活の場として、生きがい作りなど支援に取り組んでいる。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現時点での制度利用者はないが、必要に応じて支援できる体制にある。	○ 勉強会を通して全職員の理解を深めるようにし、本人、家族に対しても情報提供していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設長が十分に説明を行い、職務に就く前に文書で同意を得るようにしている。 日々の申し送りやカンファレンスを通し日常的に気づいた事や対応など意見交換している。 虐待の事実はない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて、丁寧に説明した上で同意を得るようにしている。また、疑問や不安などは随時受け付け、気軽に連絡相談していただけるように対応している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の声に耳を傾け、小さな事でも改善すべき点などは申し送りや職員会議を通し改善ケアの向上につなげている。 また、家族を通して表せるように確認を依頼している。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の思い出の写真を見て頂きながら、近況を口頭で伝えている。また、遠方であったり事情から訪問が困難な場合は、電話やご様子シート、手紙などで適宜報告をしている。金銭は個々の出納帳に記入しており月毎に相互確認を行っている。移動や新たな職員は苑便りなどでも適宜紹介、報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や要望などは随時受け付けており、いつでも気軽に問い合わせして頂けるように声をかけている。また改善すべき点などは職員会議や運営推進会議で話し合い意見を反映させるようしている。	○ 遠慮などから言い難いことを意見して頂けるように意見箱を設置しているが投函はない。慢心せず保険者や地域の第三者委員など広く受け付ける場所があることを伝えたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の気づきや疑問など、提案も含めた意見交換ができるような機会を作っており、運営者に報告し反映させるようにしている。 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学び合えるようにしている。	○ 高い成果が得られるように事業所内外の最新事例・失敗事例を参考にするなど、現場の職員の意向も運営計画に反映させるように取り組んでいきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の身体状況、受診や行事等に合わせて人員確保できるように勤務調整している。 緊急時の対応や柔軟な対応ができるように日勤帯の職員配置は余裕を持たせて作成している。	○ 夜勤対の人員確保には制限がある。 一人ひとりの入居者様に合わせたケアが適宜行える様に今後も勤務体制を検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	雰囲気や環境を変える事が、入居者様にとって影響が出る可能性があることに留意して、職員の移動を行う際は引き継ぎに十分な時間をとるなど困難がでないように配慮して行っている。 異動しても気軽に会えるような体制作りをしている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの職務能力に応じた個人別の育成（研修）計画を策定しており、職場内外でトレーニング、スキルアップできるようにしている。運営者、施設長は職員の意向や希望を把握し、研修課題の策定と研修が受けやすい体制作りをしている。	○	職務に就きながらも日々の疑問や問題が解決できるように努めているが、外部研修はもとより社内研修などの勉強会も定期的で開催し、知識や技術の向上を図ってきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、施設長は施設の同業者との交流機会が得られるように、ケアマネネットワークの勉強会や様々な研修機会を通じて情報交換や交流が図られるような取り組みを行っている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設長は職員の疲労やストレスなどの要因について気を配り、適材適所の人員配置や癒しにも取り組んでおり、気軽に話せる機会を持つなど良好な関係作りをしている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は資格取得などスキルアップに向けた支援を積極的に行っている。また施設長が個々の勤務状況を把握して研修が本人の育成に役立ったかなど成果を確認しており適正な評価で意欲向上に努めている。な関係作りをしている。	○	一人ひとりの気付きや思いが実践できるように、ボトムアップで意見交換できるように努め、互いに学び合うことで、仕事への意識や意欲が向上するようにしている。 新たな意欲が引き出せるように、リフレッシュ休暇なども取れられるように検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談では必ず本人とも会い、ゆっくりと話す機会を持つことでこれまでの生活状態や希望を聴きだし、本人や家族の求めていることや不安を受け止めるようにしている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り生活歴や心身の状態に関する情報を収集し、ご本人ご家族との面談、話し合い等を通じて、ホーム入居の適正や相性、他サービスを活用して在宅継続の可能性など十分検討するように努めている。	○ 入居にあたっては、現在の在宅生活が困難であっても症状の軽減や介護者の疲労回復、家族事情の変化など在宅の可能性を探り、自宅で家族と共に暮らせることを今後も目標としたい。 ショート利用など一人ひとりの必要性に合わせたサービス提供や対応に努めていきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の本人見学や来苑の重要性が理解されるように家族に説明し、本人が納得して入居されるように務めている。 家族の面会や外出、外泊などは一人ひとりの状態に合わせて頻度や時期を家族と相談しており混乱の軽減に努めている。	○ 緊急ケース（相談当日入居）は、本人主体となっていない場合や、環境変化の混乱や意思、意向の取り入れが難しくなるため、本人が納得して利用できるように近隣の事業所ともより協同していきたい。
ウ			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	頼りにされる、役に立つ感謝されることの喜びや達成感を得て能動的な生活となるように、一人ひとりの力や個性が発揮される場面が得られるよう援助し、日々の生活の中に役割りを持って支え合えるように支援している。	○ 画一的ではないサービスを心がけ、マンツーマンで接する機会を増やすなど、苦しみや不安なども共有できる関係を作る一方、人生の師として教を請いさまあざまな場面に適したそれぞれ役割を持ち、より深い関わりができるように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の変化など詳細を共有するように努め、家族の協力が得られるように関係を築く努力をしている。 家族との共有時間が増やせるように、面会や行事参加などを支援している。	○	疎遠な状態や依存的にならないように関係者ともコミュニケーションをとり、より家族、施設が協力して支えられるような呼びかけを継続していきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	両者の思いや、これまでの関係把握に努め、双方の思いが結びつき良好な関係が保たれるように会話や雰囲気作りの援助に努めている。 電話や訪問を依頼するなど疎外感や寂寥感が軽減されるように支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容院や買物、銀行の理容などは希望を確かめ継続利用できるように援助している。 会いたい人や行きたい場所などが聞きだせるように信頼関係を築く努力をしている。	○	「齢だから」「遠いから」などと諦めずに、懐かしい思い出が先の楽しみや新たな思い出に繋がるように、ご家族にも協力して頂いて生きがい作りを支援したい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	会話や共同作業でも一人ひとりの優しさや思いやりが伝わるように介入してコミュニケーションが取り易いよう援助している。 優しさや思いやりのキャッチボールができるように職員はもとより入居者間との関係の構築に取り組んでいる。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特にここちからは継続的な関わりを持つような働きかけはしていないが、終了後であってもいつでも気軽に連絡、相談できるように伝えている。 状況に応じて関係が断たないように、転居先を訪問したり祭りなどの案内を送ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前にご本人の思いや暮らし方の意向を確認することはもちろん、日々の関わりの中でも希望の把握に努めている。 意思疎通が困難な方でも、表情やしぐさなどから気持ちを把握、理解できるように努めている。	○ 病状による摂取制限、着用予防の活動などへの理解が得がたい入居者様もいるが、できる限り本人本位の暮らし、生きがいや満足が得られるように支援していきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に行き得る限りの情報の収集に努め、アセスメントに反映情報の把握、共有に努めている。 日常の会話（回想法など）の中でも少しずつ聞きだし把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのペースに合ったの規則正しい生活リズムの確立に努めている。 心身状態に合わせてできる事の見極めや把握に努め、自立を妨げない援助で能力が引き出せるように心がけている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を反映し、できないことを介助をするだけでなく、心身の機能低下を防げるようなプランとなるように都度話し合いながら作成している。 生活歴や現状に合わせて、コミュニケーションのとり方などに配慮している。	○ 一人ひとりの意思が出せるように働きかけ、楽しみや生きがいを増やすなど、本人主体の安定した生活が継続できるように関係者全員で、より良いアイデアを出し合っていきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの気持や残存能力を引き出す支援に努め、効果をモニタリングすると共に状態に変化がみられる場合は、定期カンファレンス以外にも意見交換するように努め、新たなニーズに即した対応ができるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル・食事・水分量、排泄状況など日々の様子は、個別に把握し、モニタリングや見直しし易いように工夫して記録している。 言動はありのまま記録して気分の変化や思いを探るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの機能、医療連携体制加算の指定は現時点ではない。	○	個別の満足が高められるように支援していきたい。同敷地に通所介護も移転予定にあり、協働やコミュニケーションの拡大を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の幼稚園や高校生との交流機会を持ち、ボランティアを依頼して歌唱指導なども行っている。 また老人会などの案内があれば参加できるように支援している。 町内会に加入して地域の夏まつりを主催している。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでおり、苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを伝えている。 相談を受け必要に応じて希望されるサービスの提案事業所を探す支援をしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握して運営推進会議などで協議している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>本人、家族の混乱を避けるためににも、早期の段階から話し合いの機会を作っていくように心掛けた。</p>
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>できる限りは本人、家族の希望に沿えるようにしたい。また、他事業所や医療機関の協力が得られるように関係を深める努力をしていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	可能な範囲、本人の意向にそえるように情報を伝えるなど支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にしている。対応が難しい時は職員間で情報を共有し意見交換するようにして対応を工夫している。個人情報の取り扱いや記録の保管には留意している。	○	家庭的の意味を履き間違えず、人生の師として尊敬する態度で接するように、馴れ合いではなく親しみが持てる言葉使いや、一人ひとりの状況に合った対応ができるように今後も心がけていきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃から話し易い雰囲気や信頼関係が深まるよう接し、本人の判断が難しい場合は、説明や助言を加えることで自己の決定を促している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分配慮しながら、本人のペースに合わせた支援を行うように努めている。希望に沿えるよう、職員側の都合でサービスの質がおちないように留意している。	○	自由に過ごされることを基本としているが、思うよに言葉に出来なかつたり、意思表示が難しい入居者様に対しては、表情やしぐさを観察して、押し付けにならない援助をするように心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みを取り入れた状況に合った服装ができるように必要な際は選択の助言や準備を援助している。理容店は馴染みの店を継続利用できるように予約や送迎を行っている。また金銭負担を軽減するためボランティアを活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況に合わせて調理の下ごしらえや準備、片付けができるように援助している。日頃は野菜が沢山摂れるように工夫したメニューであるが、四季や行事、レクにあった献立を提供するようにしている。	○	一品の調理を任せるなど一人ひとりの得意を活かしより活躍できる場面を作っていききたい。早食い傾向にあるためゆっくりと食事を楽しめるように工夫していききたい。パン食を取り入れるなどメニューの幅を広げたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者は2名であるが好きな時に喫煙できるように対応している。 おやつは個々の好みや意向を大切に、本人管理が難しい場合は適宜援助しながら自由に楽しめるようにしている。	○	個人の購入が難しいケースもあり飲み物やおやつなどの選択に幅が持てない部分もあるため、食料費の設定は今後も検討していききたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用しての排泄パターンや失禁状況を把握して、一人ひとりに合った声かけや誘導、自立の妨げとならない介助を行い不快の軽減に努めている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	可能な範囲は希望（回数や順番、曜日や時間、温度設定など）を取り入れ、リラックスして入浴できるようにゆっくり入りたい方への配慮も行っている。 週3回の基準のほかに状況に応じてシャワーや清拭、足浴なども行っている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを整えるため、日中は一人ひとりに合った様々な活動を促し、夜間は質の良い睡眠が得られるように援助している。 談話室ソファで昼寝をするなど体調に合わせて自由に休息できるようにしている。 夜間は安心が得られるように対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力が発揮されるよう、日々の生活の中で楽しみや役割作りなどを見つけ興味をもてるような声かけを行っている。 家事に伴う共同作業や手作業など、能力、気分に合わせて自由を行えるようにしている。	○	気持ち良い達成感が得られるように、役割が画一的、義務的にならないようにストレスに配慮している。 男性入居者が活躍できる場面や、一人ひとりに合った娯楽面では今後も支援を続けていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解や協力も得て、可能な範囲は本人に所持して頂き、支払いも金銭管理ができるように援助している。また計画的な使用の助言や、購入品の自己管理（盗られる妄想などの予防）ができるように工夫している。		本人の管理が困難な場合には、その代替方法を家族と相談の上に取り決め、必要品の購入は都度、家族への依頼や職員の代行を行い、その出納を明らかにして定期的にご家族の了解を得ている。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に都度対応している。散歩や買物はもとより、銀行の利用や季節用品の買物などは本人と相談した上で計画的に行っている。得に外食や洋服の購入などはより嗜好に合った物を選択するなど特別な楽しみが得られるように家族の協力を仰ぐようにしている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「温泉に行きたい」「釣りに行きたい」などの希望、墓参りなどは家族の協力も得られるように支援し実現に向っている。インフォーマルサービスを活用して、季節行事や外出レクなど年間を通して計画している。	○	「歳だから」「面倒」と諦めずに将来的、長期的な展望で先の望みが持てるように、また日頃より行きたいところなど聞き出せるよう会話している。今後も一人ひとりの生きがい作りに力を入れていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用できるように一人ひとりの能力に応じて電話機の操作など介助している。また家族への近況報告やお礼の電話を進めるなど良好な関係が保たれるように支援している。郵便物はプライバシーに配慮した上で代読、説明を加えるなど理解し易いように援助している。	○	字を書くのが苦手だったり、機能的に難しい方や、家族が遠方に暮らしたなかなか会えない方には、季節の絵手紙を出すなどやりとりができるように支援していきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に立ち寄れるように日頃により呼びかけ、訪問の際は苑全体で歓迎するようにしている。会いたいと願う人の訪問は実現できるように家族にも協力を仰いでいる。行事参加、誕生日の祝いなどの訪問を関係者に呼びかけている。	○	知人や友人といった面では地域性もあり未だ聞けたものにはなっていないと思われ、自己認識の回復のためにも過去を共有した懐かしい人物と触れ合う機会をより持てるように支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず説明し、誓約書に同意した上で業務に就くようにしている。拘束はいかなる場合もしてはいけない、しないを徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠がなくてもプライバシーや安全が守られるようにトラブルの予防に努めている。玄関は施錠しているが、閉塞感がないように対応している。	○	玄関の施錠に関しては家族の承諾が得られており、入居者様からも不満は聞かれてはいないが、職員派位置の見直しや工夫で施錠をなくしたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーが守られるように留意して日常全般や心身の状況に合わせて安全の見守りをしている。昼夜を通して一人ひとりの安全や所在確認を行っており記録もしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や刃物等は所定の場所に保管しており、一人ひとりが必要に応じて安全に使用できるように対応している。取り除くような事はなく、一人ひとり状況に合わせて包丁やはさみを使用している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行状態や嚙下、日頃の気分や言動に注意をはらい都度対応に変更を加えて事故防止に努めている。万が一事故が発生した場合には家族に連絡、事故報告書を作成し、自己原因を探り今後の対策については家族を交え関わる全員で検討している。	○	日常起こるヒヤリハット事例に記録し、再発防止のため職員間で情報を共有するようにしている。安全の確保・向上を図るため環境整備を行い入居者様一人ひとりの状態に合った対応で今後も事故防止に努めたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に速やかに対応できるように、手順、留意点を確認できるようにしている。消防署主催の救命救急など外部の講習などには積極的に参加する機会を設けている。AEDも備えてあるが研修や訓練をまだ受けていない職員もいる。	○	全ての職員が対応できる様ように定期的に訓練していきたい。外部講習を受けた職員が発表する機会を設けるなど勉強会を実施し、消防署の協力を得られれば実技を含めた救急手当や蘇生術の研修を行いたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認など定期的に避難訓練を実施している。また事業所地域内の連絡網や役割分担を作成し明示している。地域住民にも協力を仰げる体制にいる。	○	夜間の職員体制は今後も検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについて家族に説明した上で身体状況の維持や機能低下防止のための対応策を検討している。	○	重度者への対応や取り決めが、軽度者には抑圧感を与えている場合があることも否めないため今後も対応を検討していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細なことにも気付けるように、体調確認はもとより、全体ミーティング（朝、夕）や業務日誌、申し送りノートで変化や異変の情報を共有して早期対応を心がけている。 変化は家族や主治医にも都度報告している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの能力に合わせた援助を行い、服用確認をしている。また変更があった場合は予測される事柄を全職員周知した上で経過観察し医師への報告、相談を行っている。 薬の内容、副作用全てを全員が把握しているとは言えないため、複数の職員がチェックするようにしている。	○	見当識低下、誤薬防止のため日時、名前の本人確認など服用前に復唱し相互確認している。 ミスを防ぐ為セット、服用前、服用直前の3重チェック（複数の職員）を行っている。 経過や変化を確認し易いように服薬一覧を活用していきたい。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりに合った食物繊維や乳製品の取入れを行っている。また体操や散歩など適度な運動を継続して行えるように支援している。 排泄チェック表を活用して、排泄パターンに合った排便が可能となるように下剤等を調整している。	○	鬱病による脅迫念慮を持つ入居者様には安心が得られるように都度工夫した対応をしている。 運動が不足している入居様には、体を動かす機会が持てるように今後も活動の工夫をして働きかけていきたい。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけや介助を行い口腔衛生に配慮している。 就寝前は義歯洗浄剤を使用するなど援助している。 口腔状態や痛みの確認を行い不具合には歯科受診の早期対応を心がけている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録して職員間で情報を共有し、一人ひとりの体調や嗜好に応じた補食、補給ができるように援助している。 摂取制限のある場合は、身体状況に留意してストレスが軽減されるように都度工夫している。	○	食生活が楽しめるように、できる範囲は本人管理を支援して見守り、食事療法や一人ひとりに合った摂り方など今後も理解を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	予防接種を受け、日々の口腔衛生や外出後の手洗いうがいを実践できるように援助している。感染症予防マニュアルに沿ってディスポプログ、消毒などを行っている。	○	社内研修も行っているが、予防と早期発見、早期対応に関する詳細も今後取り上げるなど、感染症の知識向上に努めたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具、まな板、ふきん等消毒、漂白を都度行い、食器や調理用具は定期的に消毒している。また食材の残りや鮮度状態も随時確認している。検食はしているが食事の保管はしていない。食器乾燥機は使用していない。		
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地は区切られており、駐車場やエントランスは広く安全で、花壇や花を飾るなど明るい雰囲気作りやすいようにしている。敷地内に近隣の住民が気軽に入られ、挨拶を交わすなど、いつでも立ち寄れる雰囲気を作るために自動販売機を設置している。	○	人通りは少ないが、玄関にイーゼルを設置して催し物の予告や案内をするなど、より興味や関心を持ってもらえるように工夫したい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの時間を過ごす共有スペースのテーブルや椅子の配置は本人希望やトラブルを避けるため状況に応じて都度工夫して行っている。必要以上の飾りつけは行わず、生活の場として落ち着いた雰囲気や季節の食材の下ごしらえや洗濯物たたみなど家事ができるようにしている。遮光カーテンやフットライトなど活用している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寛いだ雰囲気で語りだり、気のあった同士が趣味活動を楽しめるように、談話室や事務室なども活用している。屋内に限らず、仲の良い入居者様が一緒に農作業をしたりベンチで語りだりできるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	できる限り馴染みの物を継続使用できるように、 愛用品利用の効果を説明しご家族に協力をお願い している。 誤嚥や事故防止のための家具等の設置が困難な場 合もあるが、心地よさが得られるよう安全に留意 した工夫している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室は一人ひとりに合った対応を心がけている。 共有スペースは心地よさが得られるように都度温 度、換気に配慮している。 冬場の乾燥は加湿器の利用や状況に応じた工夫を しているが夏場の温度調節は設備上難しい。(次 期整備予定)	○	外気との温度差にも気をつけて調節をまめに行 い、冷暖房に頼りすぎず、できる限り自然を取り 入れるように工夫している。 温度、湿度は定期的にチェックし記録している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	自立した生活ができるように手すりの設置や照明 など安全に配慮して都度対応の工夫をしている。 運営者が自らが補修したり、より改善を検討する など環境作りに積極的に取り組んでいる。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	自尊心に配慮した声かけ、本人のペースに合わせ た誘導を心掛け、身体機能を活かした動作、行動 などが自然にできるように、できる事に着目した援 助を行っている。 一人ひとりの心身の状態に合わせた対応の変化を カンファレンスなど検討している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	農作業の経験を活かして収穫を楽しめるように野 菜作りをしたり、ベンチで日光浴やお茶を楽しむ 機会を提供している。 地域住民との交流やご家族の親睦も兼ねた夏祭り を毎年開催している。	○	グランドゴルフなど敷地を活用した健康促進の運 動も取り入れ検討していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

お一人ひとりのできることを探し出し、一つでも多く自分のことができるように、また、自分からしようとする気持ちなるような働きかけをしています。一人ひとりの思いや希望を受け止め、その人らしさが引き出せる支援を行うと共に、人生の同じ時を支え合い、寄り添う者としての関係作りに努めています。尊厳が守られるお一人ひとりのペースに合わせた暮らしの中で、グループとしての力が引き出せる日課（本人の選択）や、その人なりの活動、参加が増やせる取り組みをしており、精神的、身体的な混乱要素となる不安や不快を軽減して、生活の質や日常生活動作能力の低下予防に努め、生活リズムを整え心身の健康状態を維持して心地よく暮らすことで認知症の進行が穏やかなものとなるよう援助、支援に努めています。共に生活する者として、一緒に季節を感じ、喜びや悲しみ、楽しみなどを共有して優しさや思いやりのキャッチボールができるか暖かい雰囲気を目指しており、ご本人、ご家族や職員はもとより周囲の人達の協力を得て、生きがい作りやターミナルケアにも取り組んで行けるように今後も努力したいと考えています。住人の中には最近二匹の子猫も加わり、入居者様はじめ職員も成長を楽しみしみにしています。